

旭岳温泉で初の研修会、台湾観光客受け入れへ



2月14日、ひがしかわ観光協会が主催して旭岳温泉のグランドホテル大雪で、台湾文化理解研修会を開きました。旭岳、天人峡両温泉街のホテル、旅館従業員などを対象に、外国人観光客の接遇講習として温泉街で初めての研修。

東川観光大使で台湾在住の大隅千晶さん(エノ産業)が台湾人の基本的な人柄、接遇の仕方を伝えました。町で外国人のための語学研修講座を開講するようになって以来、台湾、韓国、中国人と町内で身近に接する機会も増え、今後の増加も予想されます。その時に欠かせないのがおもてなしの方法。

初のクロカン・スキーを満喫、少年団もスタート



2月10日、キトウシ森林公園クロスカントリースキーコースで、元オリンピック日本代表選手の夏見円さん(34)

「JR北海道所属」を講師に迎えて、クロスカントリースキーの初心者講習会を開きました。終了後、小学生11人で東川クロスカントリースキー少年団が発足しました。町内の小学生を中心に25人が参加しました。「去年、旭川バーサー大会5キロに出場して今年も出る予定」という経験者もいましたが、多くは初めてという初心者やお母さん。

「両手を大きく頭の上まで振り上げて」と「片足にしっかりと体重を乗せて」とストックなしで前に進む練習、交互に片足だけスキーを履いて前に進む練習をして、スキーの醍醐味を味わいました。

なが〜い記録を更新、「小で太巻き作り

1月27日、東川第一小学校(澤田安男校長)で全校生徒が太巻き作りに挑戦。新記録の長さを更新しました。近くの金森登さんの田んぼで作って昨年秋季に収穫した「おぼろづき」米のうち12kgをこの日のために準備しました。太巻きに入れる具材のミツパと玉子、味噌汁用のみそ、豆腐は町内産。

味噌汁のだしもしっかり取って味にこだわり、完成した太巻きは21・4メートルの長さになり大成功。今年から「小巻き」と名付けました。調理室でお母さんたちが手分けして具材を下ごしらえし、体育館に机を並べてのり巻き準備も万全。児童29人と父兄約60人が一列に並んで気持ちを



合わせました。完成後は、体育館にビニールシートを敷いてピクニック気分の昼食会をしました。

ナダレンジャー初登場！年長幼児が防災学習



1月22日、幼児センターにドクター・ナダレンジャーが初登場。子どもたちに雪崩と地震の危険性を教えました。年長組の幼児70人を対象に、小学校入学前の防災教育として開きました。

「ドクター・ナダレンジャー」に扮(ふん)しているのは、理学博士で(独)防災科学技術研究所災害リスク研究ユニット総括主任研究員の納口恭明さん。紙のサングラス、毛糸で作った茶色のかつら姿で不審ないでたちの怪人ナダレンジャーが登場しました。みんなと打ち解けた後の最初の実験

は突風体験。ダンボール空気砲で空気を「ボンッ」と一気に出すと、強い風にあおられ、子どもたちは「わあっ」と大喜び。大きく長いビニール袋は「ナダレンジャー0号」。発泡スチロールの小さな白い粒を入れて上下に揺らすと、白い粒が「ザーツ」と流れて雪崩の体現実験。

目前の実験に「見えたー」と再び大喜び。細長く柔らかいスポンジを高層ビルに見立てて揺らす地震実験は「ゆーらゆーら、ゆーら、ゆーら」。楽しみながら学ぶ災害実験に、子どもたちはすっかりご機嫌でした。

2月11日、キトウシ森林公園キャンモアスキービレッジで第9回キャンモアGSL大会(大回転)が開かれ、23部門に206人がエントリーしました。本町関係分は各種大会成績欄16参照。全長861メートル、最大斜度23・93度、平均斜度14・29度(Aコース)小学2年生以上)。朝から晴れて

安心、安全な野菜生産で高収益を！生産者の集い



2月7日、東川町野菜(そさい)園芸研究会(園田稔会長)が東川町農協で「ひがしかわサラダ野菜生産者の集い」を開きました。トマト、ピーマン、長葱(ながねぎ)、ブロッコリー、スイートコーン、ほうれん草、養液、ハーブ、軟白みつばの9部会約100人の生産者が出席しました。園田会長は「道内唯一、安心・安全な商品シールをすべての野菜に貼っている。皆さんと手を取り合ってさらに東川野菜の良さを全国に発信したい」と抱負を新たにしました。

板谷重徳東川町農協組合長は「東川米に続いて地域商標の獲得に努めたい」と販売拡大を誓いました。

昨年長ねぎ生産で初めて野菜作りに取り組んだ若手生産者5人の実績報告、各部会優秀生産者表彰、主要11品目プラスチックニトマとの販売実績報告などを通じて安定収量・出荷に向けた一層の作業技術、生産管理アップ、ひがしかわサラダブランドの確立に向けて意欲を新たに懇親を深めました。



「キッズおとこのこの部」で4位入賞した佐藤孝祐君(東川幼児センター)